

山寺通信 8月号

現在異常気象で大雨、高温と人間世界だけでなく海の魚、作物にも大きな影響が出ています。嗜好品にも色々な影響が出ています。コーヒーや紅茶は過去にも異常気象により大きな影響が出ました。本来インドやセイロンはサビ病と言う病気により珈琲の栽培が全滅して紅茶の栽培に代わりました。又、最近の気候変動によりスペシャル珈琲と呼ばれているアラビカ種の栽培が難しくなると言われています。珈琲は実なので害虫には弱いと思います。お茶は葉なのでカテキンが含まれているので病害虫に強いと思われれます。

日本では開国とともに、珈琲や紅茶が外国から入ってきて広がってきました。嗜好品として日本ではお茶が中国からすでに伝わっていましたが、それは庶民が飲めるものではなく、清国が崩壊していたので日本が清の代わりに米国へ緑茶を輸出することになりました。当時日本では、抹茶が上流階級に普及していました。関西では清から呼んだ茶師が茶の製法を指南していました。彼らからとても高いお茶があると聞いて政府は、中国にその高い茶「紅茶」(完全発酵)の製法を取得するために清に役人を派遣しました。このお茶はキーマンだと思われれますが、中国では製法を教えませんでした。そこでインドまで足を伸ばしました。又、明治時代に入ると、西洋文化の象徴であるコーヒーを積極的に受け入れようとしてブラジルのサンパウロ州政府からのコーヒー豆の無償提供を12年間うけました。「カフェーパウリスタ」と言うカフェが作られました。『長崎土産』という文献によると、珈琲は1847年(弘化7年)長崎のオランダ商館から伝来したとされています。伝来してきた初期の頃、大田南畝(蜀山人)が、オランダ商館で飲用した記録が残っていますが、「焦げ臭くて味わうに堪えず」と評しています。北アメリカには、17世紀後半にコーヒー、ココア、紅茶が伝わりましたが、イギリスの紅茶の飲用習慣をそのまま引き継いで、当時は紅茶の方が普及していました。ところが、イギリスが、コーヒー貿易の競争でオランダやフランスに敗北し、紅茶貿易に切り換えたことにより紅茶貿易を独占していった。嗜好品と税金は、常に戦費確保に使われます。アメリカ独立戦争におけるイギリスの戦費、米西戦争におけるアメリカの戦費が有名です。イギリスで紅茶の文化が始まったのは18世紀に入ってから。

ヨーロッパでコーヒーの消費が始まったのは15世紀なので、約300年以上イギリスでも大量のコーヒーが消費されていたこととなります。ロンドンには3000店を超えるコーヒーハウスができました。しかしサビ病で紅茶に代わっていききました。

お待たせしました 夏は氷水 冬は暖かいお湯
シンプルな構造 使い易い 安定した使いごころ
外出時にバッグに入る 立ち飲みも目立たない

		上代 ¥1850 (税抜)		底 カバー付き		黒 白 薄緑 工場直仕入れ 結露無し <u>ティーバッグ カ</u> <u>タログに掲載して</u> <u>ます</u> (味は少し上等 です)
---	---	----------------------	---	----------------	---	---

S-B1 S-W2 高さ 180/径 62 mm 330cc キズカバー S-M3

口当たりは、丸くなっています。ステンレス真空構造